

第4学年 国語科 学習構想案

日時 令和7年9月17日(水)

場所 4年2組教室

指導者 教諭 ○○ ○○

1 単元構想

単元名	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 「未来につなぐ工芸品 工芸品のみりょくを伝えよう」(光村図書「国語 四年下 はばたき」P47~59)		
単元の目標	(1)事典の使い方を理解し使うことができる。 (2)自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 (3)目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 (4)幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。 (5)粘り強く文章を読んで、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。		
単元の評価規準	知識・技能 ① 事典の使い方を理解し使っている。 ((2)イ) ② 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 ((3)オ)	思考・判断・表現 ① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (B (1)ウ) ② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (C (1)ウ)	主体的に学習に取り組む態度 ① 積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)

筆者の主張と、それを支える事例の関係を捉えながら読み、中心となる語や文を見つけて要約したり、調べて分かったことをまとめて書いたりすることを通して、伝えたいことを分かりやすく書こうとする児童

単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)

本単元で働かせる見方・考え方

「未来につなぐ工芸品」の学習を生かして、工芸品のみりょくを友達や家族に伝えるリーフレットを作ろう。

指導計画と評価計画(13時間取扱い 本時 4/13)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	【態①】(発言・シート) ○単元の学習の見通しをもって学習計画を立て、教材文を読んで学んだことをリーフレット作りにいかそうとしている。
二	6	○文章をまとまりに分け、文章の大まかな内容を捉える。 ○段落ごとの内容を捉える。 ○要約のポイントを見つける。(本時) ○中心となる語や文を使って、要約する。 ○要約した文章を紹介しながら、筆者の考えについて考えたことを伝え合う。 ○工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に知らせる。	【思②】(発言・シート) ○「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けて、筆者の伝えたいことを捉えている。 【思②】(発言・シート) ○段落ごとに書かれていることを捉えている。 ★【思②】(発言・シート) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(本時) ★【思②】(発言・シート) ○中心となる語や文を使って、要約している。 【態①】(発言・シート) ○筆者の考えについて考えたことを、伝え合おうとしている。 【知②】(発言・シート) ○幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識を得ることに役立つことに気づいている。
三	5	○「工芸品のみりょくを伝えよう」の学習課題、学習の流れを確かめる。 ○選んだ工芸品について詳しく調べ、分かったことを図を使って、整理する。 ○組み立てと資料の使い方を考える。 ○考えた組み立てに沿って文章を書く。(2時間)	【態①】(発言・シート) ○興味のある工芸品の中から取り上げたいもの、調べたいことについて課題意識を持っている。 ★【知①】(発言・シート) ○事典の使い方を理解し使っている。 【思①】(発言・シート) ○リーフレットに載せる文章の組み立てを考えたり、資料を選んだりしている。 ★【思①】(発言・シート) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ★【態①】(発言・リーフレット) ○書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。
四	1	○完成したリーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 ○学習全体のまとめと振り返りをする。	★【態①】(発言・シート) ○単元を通して学んだことを、自分の言葉でまとめている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
小学校学習指導要領第3学年及び第4学年				
〔知識及び技能〕 (2) 情報の扱い方に関する事項				
〔思考力・判断力・表現力等〕 「C読むこと」「B書くこと」				
教材・題材の価値				
<p>本単元は、「読むこと」と「書くこと」の二つの領域にわたる指導事項を中心とした複合単元である。筆者の説明の仕方を捉えたり要約したりした後、百科事典などを活用し、工芸品について調べたことをリーフレットにまとめる活動を行う。筆者が伝えようとしていることを捉える活動が、自分が伝えたいことを考えることにつながったり、伝えたいことを伝えるための工夫を、自分が書く際の工夫にしたりすることができる教材である。また、日本の伝統工芸、伝統文化、さらには伝統的な生活様式への気づきや知識を得ることだけでなく、ESD（持続可能な開発のための教育）やSDGs（持続可能な開発目標）の観点とも深く関わるといえる。気候変動などを背景に持続可能性が重視される社会にとって、非常に大切な示唆を与えてくれるものであることに気づくこともできる教材になっている。</p>				
本単元における系統				
<p>3年「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」話題と、事例の書かれ方を捉えて読む。適切な事例を挙げ、構成や順序、絵や写真の示し方を工夫する。</p> <p>4年「思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える」文章構成や段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えを捉える。</p> <p>4年「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりょくを伝えよう」まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、分量を考えて要約する。理由や事例を挙げて考えを伝える。</p> <p>4年「風船でうちゅうへ」興味をもったことを中心に要約し、文章に対する感じ方の違いやよさを考える。</p> <p>5年「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させてかく。</p>				
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (R7年度 町学力調査問題 R7年4月実施) (%)				
出題のねらい		正答率		
① 叙述を基に文章の内容を捉えている。		81.5		
② 叙述を基に段落の内容を捉えている。		59.3		
③ 中心となる語や文を見付けて要約している。		70.4		
■本単元の学習に関する意識の状況 (R7年5月実施) (%)				
調査内容		はい	どちらかといえはい	いいえ
① 説明文の学習は好きですか。		5	11	8
② 教科書をすらすら読めますか。		6	11	10
③ 国語の授業で「できた」「わかった」と思うことがありますか。		9	16	1
④ 国語で習ったことを、「次の国語の学習でも使いたい」、「次の国語の学習にもいかせる」と思っていますか。		8	14	2
⑤ 国語の授業で考えているとき、友達の考えを聞きたいと思いますか。		13	13	0
⑥ 自分の考えを相手に伝えたり、発表したりできていますか。		7	11	6
■考察				
<p>4月の標準学力調査の結果から見ると、叙述を基に文章の内容を捉えることに対しては正答率が8割を超えているが、叙述を基に段落の内容を捉えていることに対しての正答率は6割未満である。初めて読む説明文に対して、叙述を基に文章全体の内容の大体を捉えることはできているが、細部の内容を捉えることや、読み取った情報のつながりを意識して整理したりすることを苦手としている児童が多い。文章全体の構成を捉えた上で、叙述を基に読み進めていく、基本的な読み方を確実に身に付けていく必要がある。</p> <p>意識調査の結果では、説明文の学習や、教科書をすらすら読むことに対して苦手意識を持っている児童が4割程度いることが分かる。⑥の質問に対し肯定的な回答した児童が6割程度である。友達の考えを聞きたいが、そこから自分の考えにつなげ、つたえていくことに自信がないと考えられる。学んだことを活用していこうという意識や、授業で「できた」「わかった」と思うことがある児童や、学んだことを活用していこうという意識を持っている児童は多いため、それらを活用する良さを実感できるような工夫が必要である。よって、以下に上げる研究の視点をもとに、学習活動の工夫を行う。</p>				

3 研究の視点

研究主題
学びの自覚化を通した主体的な読み手の育成 ～国語科「説明文教材」を中心とした授業構想～
研究の視点
(1) 「問い合わせられる導入の工夫
① 単元をつらぬく「問い合わせ」を生む工夫
・工芸品を選んで説明文を書いて、難しさを実感させる。その上で、「分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいか」と問題意識を持たせる。それを解決するために本教材を読むという、「教材を読む必要感」を持たせる。そして、本教材を読み、中心となる語や文を見つけて要約する活動を行う。それらを行いながら中心となる語や文を見つけながら、リーフレットを作る学習を学習のゴールとする。そうすることで、教材から学ぶ必要性や中心となる語や文を見つけることの大切さを感じることができるようとする。
② 学習の連続性を意識し、「問い合わせ」を更新していく工夫【本時】
・毎時間授業の導入で、前時での振り返りや感想を、全体で共有する。毎時間の学びがつながっていることを自覚すると共に、単元をつらぬく「問い合わせ」の解決に向けた学びの価値づけをして毎時間の授業に目的意識を持って向かうことができるようとする。
(2) 重点指導事項や既習事項をもとに組み立てる授業構成の工夫
① 学びの系統性を意識した単元計画の工夫
・単元計画をする際に、本教材の重点指導項目を軸にすることで、本教材で確実に学ぶ必要があることは何かを明確にする。同じ重点指導項目におけるこれまでの学びや、前教材・前学年での学びを明確にすることで、既習事項をもとにした効果的なアプローチができるようとする。
② 重点指導事項をもとに考える学習活動の工夫
・本教材では、筆者の主張と、それを支える理由や事例の関係を捉えながら読み、中心となる語や文を見つけて要約する力や、調べて分かったことをまとめて書く力を身に付けさせたい。3年生までの既習事項を思い出させながら、本教材と結びつけられるようとする。
(3) 「わかった・できた」を実感させる「振り返り」の工夫
① 考えの共有を促す学習形態の工夫【本時】
・自力解決場面、ペア対話の場面、全体での共有を意識した授業づくりを行う。自分の意見を伝えるために、自力解決の時間を確保する。その後、自分の考えの理由を説明したり、相手の考えの根拠がどこにあるのかを意識しながら聞いたりすることができるよう対話活動を取り入れる。一人では分からなかった考えに出会い、他者と考えを共有することで、自分の考えを価値づけられるようとする。
② 学びの自覚化につながる振り返りの工夫【本時】
・本時の学びを振り返りの視点に沿って振り返らせる。自分の言葉で振り返ることで、学びを自覚するとともに、次時の学びへの意欲付けとする。また、単元の最後には、教科書の「ふりかえろう」を活用し、「知る・読む・つなぐ」の3つの視点について、振り返りを行う。本単元で学んだことをまとめ、学びを実感させるとともに、学んだことが今後につながっていくことの見通しを持たせるようとする。

4 本時の学習

- (1) 目標 要約するために必要な語や文を見つけることができる。
 (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図,内容,方法等)
導入	5分	<p>1 単元のゴール、問い合わせを振り返る。 ◇ゴール「要約の学習を生かして、工芸品の みりょくを伝えるリーフレットを作ろう。</p> <p>2 前時の学習を振り返る。 ◇文章を「はじめ」「中」「終わり」に分けた。 ◇「はじめ」と「終わり」に筆者の伝えたいこ とが書かれていた。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○学習課題を確認し、単元を貫く問い合わせを振り返ること で、何のために学習をしているのかを焦点化する。</p> <p>○前時の振り返りを出すことで、これまでの学びを想起し、本時の学習につなげられるようする。</p> <p>○前時の学習をもとに、「初め」「中」「終わり」に 分けたことや筆者の伝えたいことを確認する。</p> <p>○要約の目的や相手を確認する。</p> <p style="text-align: center;">【めあて】要約するためのポイントを見つけよう。</p>
展開	30分	<p>4 今までに学んだ要約のポイントも使いな がら、「アップとルーズで伝える」の要約を 使って要約のポイントを確かめる。 ◇今までに学習してきた筆者の主張や繰り返 し出てくる言葉を使って要約されている。 ◇事例の部分も要約に使われている。</p> <p>5 本教材の要約に必要な語や文を考える。 (1) 個人で考えた後、班で話し合う。 ◇筆者の主張の理由の部分は必要かな。 ◇筆者の思いがこめられていると思うから、 読者へのメッセージも書いたほうがよさそ うだな。</p> <p>(2) 全体で意見を出し合い、中心となる語 や文を確かめていく。 ◇「中」に書かれている理由の部分は、筆者の 主張につながるから要約に必要だね。</p> <p>【期待される学びの姿】 まとまりごとに中心となる語や文を見つけようとして いる。</p>	<p>○既習事項をもとにしながら、要約に書かれている ところはどんなところかを考え、ポイントを確か めさせる。</p> <p>○筆者の主張や、事例等が要約に使われていること に気づかせる。</p> <p>○中心となる語や文だと思うところを選び、線を引 かせる。</p> <p>○線を引いたところを班で共有し、要約に必要かどう かを話し合いながら、班のシートに線を引かせ ていく。</p> <p>【到達していない児童への手立て】 前時までに学習した部分を教師と一緒に確かめ、 中心となる文を選ぶことができるようアドバイス をしたり、一緒に考えたりする。</p> <p>○班での話し合いを全体で共有し、中心となる語や 文を確かめていく。</p> <p>○筆者の主張や繰り返しでてくる言葉のほかに、筆 者の主張や読者へのメッセージも中心となる語や 文になることを全体で確かめる。</p>
終末	10分	<p>6 本時の学習をまとめる。</p> <p>【まとめ】筆者の主張やそれを支える理由、題名につながる言葉や文が要約に必要。</p> <p>7 本時の振り返りをし、次時の見通しを持 つ。 ◇理由も中心となる語や文になることが分か った。 ◇要約するときには、中心となる語や文を見 つけるとよいことが分かった。</p>	<p>○「振り返りの視点」に沿って、振り返りを行う。</p> <p>○様々な友達の振り返りが交流できるようする。</p> <p>【具体的評価基準】【思②】 ★目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。 (方法: 発言, 発表, シート)</p>